

## 第1回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

### 1 開催日時

令和3年3月23日(火) 15時30分から17時40分まで

### 2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

### 3 出席委員(名簿順)

大塚 俊幸 中部大学教授  
加藤 武志 中京大学講師及びまち楽房有限会社  
古池 嘉和 名古屋学院大学教授  
増田 昇 大阪府立大学名誉教授  
和田 貴充 空き家活用株式会社代表取締役 CEO  
稲垣 武磨 尾張中央農業協同組合  
蛭原 義裕 一般社団法人小牧青年会議所  
田中 秀治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会  
坪井 和巳 小牧商工会議所  
秦野 利基 こまき市民活動ネットワーク  
落合 勝之 陶小学校区地域協議会  
深堀 修 篠岡学区地域協議会  
中川 豊 光ヶ丘小学校区地域協議会  
小柳 松夫 桃ヶ丘小学校区地域協議会  
村上 富士男 大城小学校区地域協議会  
原 正行 公募委員  
藤村 歩 公募委員  
三木 孝行 公募委員  
渡邊 比呂子 公募委員

### 4 欠席委員

林 麻衣 小牧市小中学校PTA連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表

### 5 オブザーバー

西脇 毅 愛知県県営住宅管理室  
浅田 裕人 愛知県交通対策課  
小林 康彦 独立行政法人都市再生機構  
小塚 智也 一般財団法人桃花台センター

### 6 事務局

鵜飼 達市 都市政策部長  
水野 隆 都市政策部次長

平野 淳也 都市政策部東部まちづくり推進室長  
横井 久志 都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長  
林 亮佑 都市政策部東部まちづくり推進室 主事  
桂川 隼斗 都市政策部東部まちづくり推進室 技師

## 7 関係部署

竹内 隆正 地域活性化営業部次長  
宮下 美則 地域活性化営業部農政課長  
白木 孝治 地域活性化営業部農政課農業振興係長

## 8 傍聴人数 4名

## 9 会議内容

### 1 開会

あいさつ

### 2 会議の公開について

### 3 審議会委員任命

### 4 委員自己紹介

### 5 会長・会長職務代理者選出

### 6 諮問

### 7 議事

- (1) 東部まちづくり戦略会議の議論について
- (2) 東部振興構想策定に係る基本方針（案）について
- (3) その他

### 8 閉会

## ■議事録

### 【事務局】

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

ただいまより、第1回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の水野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は、次第に記載したとおりであります。ご確認いただき、不足等ございましたら、お申し出いただきますようお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、はじめに山下市長よりごあいさつ申し上げます。

### 【山下市長】

皆様お忙しい中、第1回小牧市東部まちづくり審議会にご出席いただき、まことにありがとうございます。また、この度は委員の就任を快くお引受けいただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、全国的に人口減少社会・超高齢化社会と危惧されておりますが、本市においても、例外でなく平成27年をピークに人口が微減しており、特に人口減少が著しい地域が東部地域になります。そのなかでも、昭和の終わりから平成のはじめにかけて入居を開始し、約40年が経過した桃花台ニュータウンの人口減少・高齢化の進行が著しい状況であります。

そのような背景のなかで、東部地域のまちづくりについて、住民をはじめとする東部地域に関係する皆様と共通認識を持ち、持続的に発展しつづけるまちとするため、まちの将来像及びその実現のための取組を明確にする東部振興構想の策定が必要であると考えております。

昨年度より、私が本部長を務める市政戦略本部の中に東部まちづくり戦略会議を位置づけ、外部の有識者や地域住民の代表の方にご参加いただき、東部振興に関する基本的な考え等、まちづくりを行ううえで重要となるポイントなどについて議論を行ってまいりました。その議論を踏まえ、本日の議事にあります東部振興構想策定に係る基本方針（案）を作り上げてきました。

また、本市の最上位計画であります小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画において、3つの都市ビジョンを定めておりますが、そのうちの魅力・活力創造都市で、東部地区の振興を位置づけ、市の重点事業のひとつとして進めていこうとしているところであります。

ぜひ、これから委員の皆様を含め、東部地域に関係する皆様と行政、一丸となり、まちづくりを進めていきたいと考えておりますので、それぞれ専門的なお立場、また、地域の代表としてのお立場から、どうか忌憚のないご意見・ご提言を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

## 【事務局】

次第2 会議の公開について事務局より説明いたします。

情報公開の一環として、会議を公開することは、審議会の運営の透明性、公平性を確保するとともに、市政に対する市民の理解と信頼を深めることに寄与するものであります。

また、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針では、審議会等の会議は、原則として公開することとされております。

これらのことから、本審議会につきましては、公開とさせていただきますので、よろしくお願ひします。

資料3 傍聴要領（案）をご覧ください。

1. 傍聴手続きについて、(1)で入室時刻、(2)で先着順の旨を記載しました。2. 傍聴者の定員について、原則50名とし、ただし、感染症の拡大など人の密集を防ぐ必要がある場合など不測の事態が発生した際は、変更できる旨を記載しております。3で傍聴者の遵守事項を(1)でアからオの5点、記載し、(2)で傍聴者が(1)の事項に違反した場合は、退場してもらうことがある旨を記載しました。

なお、記録用として、随時、撮影・録画させていただくとともに、議事録につきましては、市ホームページ、情報公開コーナーにて公開させていただきますので、あわせてお願いいたします。

続きまして、次第3 審議会委員任命であります。

小牧市東部まちづくり審議会条例第3条の規定に基づき、20名の方を選出させていただきました。

本来であれば、お一人ずつ任命書を交付させていただくべきではありますが、時間の都合上、代表者の方に交付させていただき、その他の委員におかれましては、机上への配布をもって、交付に代えさせていただきます。

それでは、代表者の方に、任命書を交付させていただきます。山下市長、前へお願いします。  
委員を代表して、原 正行様に、山下市長から任命書を交付させていただきます。  
原様、前へお願いします。

#### 《市長より任命書の付与》

ここで、ご報告申し上げます。

本日の出席委員数は19名でございます。

したがいまして、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

続きまして、次第4 委員自己紹介であります。

本日は第1回目の審議会ということでもありますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

資料2が委員名簿となっております。本日は林委員が欠席との連絡を受けております。なお、増田委員、古池委員、大塚委員及び和田委員につきましては、リモートによる出席をいただいております。名簿の順にお名前を読み上げますので、委員の皆様におかれましては、大変恐縮ですが、時間の都合上、その場でご起立いただいた後、着座にて、一言お願いしたいと思います。

#### 《資料2 小牧市東部まちづくり審議会委員及びオブザーバー名簿の順に自己紹介》

続きまして、オブザーバーのご紹介をさせていただきます。

#### 《資料2 小牧市東部まちづくり審議会委員及びオブザーバー名簿の順に自己紹介》

続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

都市政策部長の鶴飼でございます。

東部まちづくり推進室長の平野でございます。

推進係長の横井でございます。

担当の林、桂川でございます。

続きまして、次第5 会長・会長職務代理選出であります。

本審議会を運営していくため、会長を選出していただきたいと思います。

小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第1項におきまして、委員の互選により会長を定めることとされております。いかがいたしましょうか。

#### 【小柳委員】

指名推薦の方法とし、会長には、増田委員をお願いしてはどうかと思います。

増田委員は、令和元年度から4回にわたって開催されました東部まちづくり戦略会議の委員であるとともに、大阪府堺市にある泉北ニュータウンの再生にも関わっており、経験も豊富であることから適任であると考えます。

#### 【事務局】

ただいま、増田委員を会長にとのご発言がございました。委員の皆様、いかがでしょうか。

《異議なしの声あり》

【事務局】

ご異議がないようでございますので、会長は増田委員にお願いいたします。  
それでは、増田会長より一言ごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【増田会長】

増田でございます。

皆様方のご推挙によりまして、会長という大任を仰せつかりました。身の引き締まる思いでございます。先ほど、市長からご挨拶がありましたように、東部地域の持続可能なまちづくりということで、これから計画策定並びに、推進にかかわるものを作っていくと。皆様方のこれからの行動の指針になるものができたらと思っております。特に、このようなまちづくりにおきましては、内にあるエネルギーと、外部との連携あるいは支援というものが不可欠でございます。本日のメンバーは内からのメンバー、外部からのメンバーが集まっています。この力が合わさって、展開して行くのであろうと思っております。このまちづくりというのは非常に、息の長いものでございます。満塁ホームランみたいなものは出ないかもしれませんが、確実に小さな成功例、ヒットを積み重ねていって、絵に描いた餅ではなくて、合意形成が取れた、実行できるプランができ、皆様と実感できたらと思っております。皆様からの忌憚のない意見をいただきながら進めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。  
続きまして、会長の職務代理者の選出です。

小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第3項において、会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理するとあります。これに基づき、増田会長から、職務代理者の指名をお願いいたします。

【増田会長】

それでは、私からの指名ということですので、中部大学 教授の大塚委員にお願いしたいと思います。

【事務局】

ただいま、増田会長より、職務代理者に大塚委員がご指名されました。大塚委員よろしくお願いいたします。

【大塚委員】

よろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、次第7 諮問であります。  
山下市長から、東部振興構想の策定について諮問がございます。

通常は会長に受理をしていただきますが、会長及び会長職務代理者がリモートでの出席でありますので、会長より受理していただく方を指名していただきたいと思います。

**【増田会長】**

私と会長職務代理がリモートで出席させていただいておりますので、代わりに小柳委員に受理をお願いしたいと思います。小柳委員お願いします。

**【事務局】**

只今、会長より小柳委員の指名をいただきましたので、小柳委員と市長は前へお願いします。

**《市長より諮問》**

大変恐縮ではありますが、市長におかれましては、他に公務がありますので、ここで退席させていただきます。

**《市長退席》**

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会務を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。会長、よろしく願いいたします。

**【増田会長】**

それでは、ここからは私が議事を進行させていただきます。

お手元の次第に基づいて進めます。

次第7(1)東部まちづくり戦略会議の議論について、と(2)東部振興構想策定に係る基本方針(案)については関係性がありますので、一括での議事といたします。

事務局より説明をお願いします。

**【事務局】**

議事1及び議事2について一括してご説明いたします。議事1 東部まちづくり戦略会議の議論についてであります。

はじめに東部まちづくり戦略会議について、簡単に説明をさせていただきます。

東部まちづくり戦略会議とは、東部地域の人口減少が著しく、また、急速な高齢化が進展していることから、まちの将来像やその実現のための取組を明確にする東部振興構想を策定するため、その策定方針を定めるために設置した組織であります。

市長が本部長を務めている市政戦略本部において、本市の重要な課題について、戦略会議を設けることとしており、その中の一つとなっております。

戦略会議の委員構成としては、市政戦略本部長である市長をはじめ、各分野における専門家や地元住民の代表の計8名で構成されたものであります。

令和元年11月からこれまでに4回開催し、資料4にあります東部地域の人口や土地利用などの情報をまとめた基礎データ集などを使用し、活発な議論が行われ、委員の方から多数のご意見をいただきました。

それでは、資料5をご覧ください。

この資料は、これまでの戦略会議での議論を踏まえ、今後のまちづくりの基本的な考え方としてまとめたものであります。

資料上段に基本的な考え方として5つの視点でまとめており、また、それぞれの目的を明確にするためキーワードを付したものを記載しております。

桃花台ニュータウン、周辺地域などの複数あるコミュニティの連携・融合を図るとして、東部地域一体でのまちづくりとしての一体性。

取組のスタートアップから一定期間後は、行政支援から自立した地域住民による取組となる仕組みを構築するとして、地域住民による自立したまちづくりとしての自立性。

居住、生活、就業、遊びなどの機能を連携することで、生活課題を克服するとともに、多様な地域資源を連携・活用し、新たなまちの魅力へ転換として、多様な地域資源を連携・活用したまちづくりとしての多様性・活用性。

将来を見据え、長期的・短期的な課題に柔軟かつ可変的に対応するとして、柔軟性・可変性を持ったまちづくりとしての柔軟性・可変性。

市民のほか、東部地域に関する人たちの挑戦を応援する仕組みを構築するとして、チャレンジをサポートするまちづくりとしての将来性であります。

資料中段には、課題・可能性の視点として、住む・暮らす、働く、既存ストック、資源の4つのカテゴリーに分類し、それぞれ現況と課題を示しております。

なお、この欄にあります赤色・青色で着色した箇所に記載のあるページ番号はお手元の資料4基礎データ集におけるページ番号を示しておりますので、後ほどご覧ください。

資料下段には、取組の視点として、情報発信、地域協働・連携の2つのカテゴリーに分類し、手段を示しております。

次に、資料6をご覧ください。

この資料は、今後のまちづくりの基本的な考え方をコミュニティ体系図としてまとめたものであります。

東部地域のなかには、桃花台ニュータウン、既存集落、企業の3つコミュニティが存在しており、また、東部地域には、大学もあります。

それぞれが連携・融合し、お互いの欠けている部分を補うことにより、課題を新たな魅力に転換し、それを加速するため、東部地域の内外を問わず、ベンチャー企業や起業家、NPO・市民団体、若者などがサポーターとして、この連携に積極的に参画することで新たな発想や取組を取り入れていくことが重要なポイントのひとつになることを示したものであります。

続きまして、議事2 東部振興構想策定に係る基本方針（案）についてであります。

資料7の1ページをご覧ください。

これまでの戦略会議における議論を参考とし、事務局において東部振興構想策定に係る基本方針（案）を作成しました。

1の構想策定の趣旨であります。

全国において、人口減少、少子高齢化の進行が加速しており、本市においても例外ではありません。

特に桃花台ニュータウンが位置する東部地域においては、桃花台ニュータウン周辺部の既存集落の人口は微減であるものの高齢化は進行しており、桃花台ニュータウンでは、人口減少に加え、高

齢化の進行が急速に進んでいる状況であります。

今後、コミュニティ活動などの活力が衰退することに加え、空き家の増加等による居住環境の悪化が懸念されます。

桃花台ニュータウンは、高度成長期に名古屋都市圏の住宅市街地、いわゆる純住宅として整備されたため、道路や公園などのインフラは充実していますが、居住区域の土地利用は制限されています。

産業については、2つの工業団地をはじめ多くの企業が進出しており、製造業や運送業などの立地が図られているものの、近年ではベンチャー企業などの起業やICTの普及による在宅勤務などの環境整備も求められています。

また、農業については、桃やぶどうなどの栽培が盛んな地域でありながらも、近年は核家族化の進行の影響などにより、後継者等の課題を有しています。

このような現況と課題から、東部地域を持続的に発展し続けるまちとするためには、桃花台ニュータウンとその周辺部の既存集落や企業などのコミュニティが一体となり、様々な形で連携することにより、諸課題を克服するとともに、多様な地域資源を活用し、東部地域全体の魅力を高める必要があるとしております。

よって、今後の東部のまちづくりは、住民をはじめ関係者が共通認識を持ち、夢と希望をもって取り組む必要があるため、まちの将来像及びその実現のための取組を明確にした東部振興構想を策定するものと記載しております。

2ページをご覧ください。

2の構想の体系であります。

図は、東部振興構想の体系図を示しており、基本理念であるまちの将来像、ヴィジョン、取組方針を明確にし、策定する際は東部まちづくり戦略会議の議論を参考にすることとしております。

構想策定後はそれに基づいた実施計画を策定し、進捗管理については、PDCAサイクルを導入のうえ、構想計画期間の10年、中間の5年、実施計画の1年で評価検証します。

3ページをご覧ください。

3の計画期間であります。計画期間を2022年度、令和4年度から2031年度、令和13年度の10年といたします。

続きまして、4の構想の位置づけであります。

こちらは、記載のとおりであります。市の最上位計画であります。小牧市まちづくり推進計画第1次基本計画、第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略、小牧市人口ヴィジョンに即し、土地利用についてとりまとめた小牧市都市計画マスタープラン、小牧市立地適正化計画と連携を図り、更に、個別の各計画と連携を図るものとしております。

4ページをご覧ください。

5の策定体制であります。

大きく3つの部門に分けました。1の策定部門、2の東部地域の関係者の参画、3の市議会との情報共有であります。

1の策定部門としては、市長と庁内組織である東部まちづくり庁内検討会議、諮問機関としては、当審議会であります東部まちづくり審議会とし、それぞれの役割等は記載のとおりであります。

2の東部地域の関係者の参画としては、東部地域の関係者の方々に、まちづくりミーティングやワークショップなどに参画し、ご意見やご提案をしていただくこととしております。

3の市議会との情報共有としては、策定状況の報告や意見をいただくこととしております。

なお、下段は、策定体制のイメージ図であります。

5ページをご覧ください。

6の取組みスケジュールであります。

まちづくりミーティングやワークショップを行いながら、東部振興構想案を検討し、パブリックコメントを実施し、令和3年度中に東部振興構想を策定するスケジュールを考えておりますが、先ほどご説明しました東部地域の関係者の参画に伴うご意見、ご提案が重要であると考えていることから、策定の進捗状況に伴い、柔軟に対応したいと考えております。

以上であります。

#### 【増田会長】

ありがとうございました。

今、ご説明いただいたものは、前年度と違いますか、戦略会議のひとつの成果として、基本的な考え方、課題・可能性の視点、取組の視点を書いていただくと同時に、基本的な考え方としてその体系図このあたりが前年度の戦略会議の成果ということでございます。

今回ご参画いただいている半数以上の方が、この戦略会議に参画されていませんでしたので、何かこの点に関して質問なり、あるいは追加事項、あるいは疑義のある点等、ご自由に発言いただけたらと思います。

会場で発言いただける場合、事務局の方で、どの委員が举手したか教えていただけると助かります。事務局よろしいですか。

#### 【事務局】

わかりました。

#### 【増田会長】

どなたかいらっしゃるでしょうか。

#### 【落合委員】

今、屋敷とかいろいろなところを見ると、昔から伸びたでかい木がたくさん残っていたわけですけど、高齢化が進んできて、自分で面倒見切れないと、樹木が小さくなってきている。当然、保全されていたり、人に安らぎを与えるといういい木もだんだん伐採されている。

若い人とか自分の子どもは庭木とかも手入れしない。これからまちづくりの上で、ここに色々な計画を立てていきますけれど、実際携わる人、そういう人を育成していくとか、PRをしてこのような形のものがあるとか、そのようなことをここに盛り込んでいくとか、進めていく方向をはっきりする。保全するものは保全するだとか、いろいろなことをしておかないと、計画を作っても、今でいうと、土地が売れるのを待っているが、田舎の方はなかなか売れないとか、基本は若い人が魅力を持って、携わってくれるのかということを方向づけしておかないと、計画を作るだけになってしまう。

#### 【増田会長】

ありがとうございました。

資料5でいうと、「豊富な自然環境の活用」と書いてございますけれども、基本的には「保全と活用」という形で明示した方がいいのではないかと思います。

もう一つは、地域の協働の連携の中で、ある意味、自助、共助、公助という自らの環境は自らで守るというようなスタンスと同時に、担い手が高齢化で不足してきていますので、担い手の発掘であるとか、育てていくという視点が抜けていないかというご指摘かと思っておりますので、何らかの意味で反映させるということで事務局に考えていただくということによろしいでしょうか。

#### 【事務局】

はい。わかりました。ご意見を踏まえ、考えて進めていきたいと思っております。

#### 【小柳委員】

私は、桃ヶ丘小学校区の地域協議会の会長を仰せつかっておりますし、同時に、小牧市から委嘱をされております、区長という立場でもあります。

その中でいろいろと考えさせていただいたのですが、実は私のところの区では、363戸ありますが、65歳以上の高齢者比率が、55.2%と圧倒的な高齢化となっている。

新年度を迎えるため、役員構成をし始めていますが、自分のところのブロックはできるけれども、体が付いていかないから、大きな役はやめさせていただきたいという声が年々増えてきている。そのようなことも、切実な問題として、今後持続可能な町内会にしていくためにどうすればいいか頭を悩ましている。

皆様のお知恵を借りて、いち早く打開策をとらないといけないという想いをもってここに参加させていただいています。

#### 【増田会長】

わかりました。これは国全体で、少子高齢化が進んでいく中で、共通の課題で、担い手をどう育成していくのかという話と、大学生や、新しい担い手とどう連携していくかということが、大きな課題であると思っております。

住む・暮らすに書かれている若者に魅力があるまちと記載されていますが、いかに、次の世代を中に取り込むことができるかが大きな課題であると思っております。

よく、自治会なんかでは、後ろを振り返ったらあとの担い手がいないので、いくつになっても区長をやめることができないという方も非常に多いです。

#### 【中川委員】

光ヶ丘小学校区地域協議会の中川でございます。

実は私が住んでおりますところは、小牧市東部まちづくりの中の、東部の中でも最東部。10m歩けば春日井市というところでもあります。

私は、春日井市から18年ぐらい前に小牧市に転入いたしました。その時に、緑豊かな自然があつていいまちだな。ここなら落ち着いて住めるなと感じました。

ところが、昨今は緑がどんどん減少してきている。グレー、がれきの街並みになってきている。それがどんどん拡大している。その中で、果たして本当にまちの魅力というものはどうなっていくのか、ひょっとして減少していつているのではないかという懸念を抱いている。

近隣にありました、名古屋造形大学は出て行ってしまいます。本当に魅力がなくなっているのではないかと。そのあたりの見直し、どこに問題があるのか。もちろん、ここで、産業廃棄物関係の業態を否定するわけではございません。どこかの地域で、誰かがやっていたかなくてはならない業種であります。しかし、それが、目と鼻の先ががれきの山が増えてきていると、いうならば住民が弱者になっている感じもいたします。小牧市としまして、当然ニュータウンがメインになってくるとは思いますが、近隣のまち、この辺のところも重視していただいて、この会議を進めていただければという気持ちでいっぱいあります。

#### 【増田会長】

この話は、単純に桃花台ニュータウンだけではなく、企業団地あるいは、既存の集落を一体的に議論をするということ、基本方針（案）における【一体性】ということで掲げているので、十分に議論を尽くさないといけないと考えております。ありがとうございます。

特に樹木の関係として、巨大な台風が来た後、高木管理というのは、大きな課題となっている。人間が植えた木というのは、人間が手を加えていかないといけないものなので、覚悟して取り組まないといけないと思います。

#### 【深堀委員】

篠岡学区地域協議会の会長であります、深堀でございます。

私共が今、抱えている切迫した問題は、一人暮らしの方がかなり増えてきていることであります。

広い一戸建てに一人で暮らしているため、防犯という意味で、注視する必要があると感じています。

町内会で、防犯パトロールというグループを作り回っているが、四六時中回っているのではなく、週に1回程度である。ましてや、昼間というのは、若い人たちは皆仕事に行ってしまうと、まちの中は年寄りの集団が、残っている状況である。皆さん体力的にも衰えているため、襲われても自分で防ぐ力がないのが現状である。完璧ではないにしても、どういった形で、高齢者を守るか。

高齢者を守るということは、小さな子どもを守ることに繋がると思います。

そのあたりを重点的に協議していただきたいというのが私の願いであります。

#### 【増田会長】

そうですね。資料にも高齢者が暮らしやすい生活環境とあります。特に独居老人に関しましては、いかに外出機会を生み出せるまちになるかということがひとつ。

もうひとつが、俗にいうサードプレイスという、ちょっとした知り合いと、気楽に同じ時間・場所を共有できる場所をいかに作ることができるかが大きな課題であると考えているので、是非そのようなところを取り組んでいけたらと思っております。

#### 【加藤委員】

この進め方の中で、審議会のメンバーの方のご意見を伺うということと、まちづくりのワークショップ、大学との連携と書かれているので、ここにいらっしやらない方と一緒に考えていかないと、先ほど話のあった担い手や実効性のところが確保ができないのだろうと感じております。

あと、審議会をこの形式で、話し合いをしてくださと言われてもなかなか、僕でさえ発言しにくい状況なので、もう少しフランクなテーブルのセットであるとか、人数の分け方などを組み合わせるとよ

り発言がしやすいのかなと感じました。

#### 【増田会長】

わかりました。今回非常に重要な点として、資料7に記載がありますが、まちづくりミーティングやワークショップと審議会との関係をどのように築くかと考えています。

資料7の4ページ目に東部振興構想の策定に関するイメージ図があり、一番下に東部地域の関係者の参画と書かれております。今までの経験上、このような記載ではなく、横一列に並べた方がいいのではないか。上下関係に見えない方がいいと思います。

確認ですが、公募委員の皆様はワークショップに参加していただけるのでしょうか。

ワークショップの議論と審議会の議論を自由にキャッチボールできるような形でのスケジュールを考えていただけるとありがたいですが、事務局の方いかがでしょうか。

#### 【事務局】

はい。会長の言われたとおりワークショップと本審議会が連携できるよう、スケジュールを組んでいきたいと考えております。

#### 【増田会長】

そうですね。

それがかなり重要になると思いますし、ワークショップの卒業生の皆さんが、活動の起点になっていく。そんなワークショップになってくれればありがたいと思っている。

#### 【和田委員】

今回、地域の方にも来ていただいているのですが、空き家活用という視点で、地域というものを考えたときに、地元にお住まいの方、そこでこれから根ざしていこうという方が中心となって、考えていけないといけないと思っています。

その中で、以前開催したパネルディスカッションで、高校生の方が発言されていましたが、そういう声をどんどん吸い上げて、自分たちの子や孫が帰ってきたいまちというものを想像しながらやっていくということが必要であると感じます。

今回、ワークショップに参加していただいて、自分たちのまちを作り上げたという経験値は将来的にも残ると思う。積極的に地域の方たち、特にこどもたちとワークショップをするという機会をつくって地域の未来を表現できれば素晴らしいと思います。

#### 【古池委員】

資料4、5、6に関して、少し気になることがあります。

資料6において、それぞれの連携とか上手くとらえているのですが、欠落しているというか、ちょっと弱いと感じるのが「時間の捉え方」であります。

これからの行く末を考えていくために、これまでに、この土地に埋め込まれた資源の整理が必要だと思われる。文化資源の掘り起こしの整理をもう少し丁寧にされた方がいいかなと思います。

特にコミュニティ再生というのは、コミュニティ創造の手掛かりとなるような、文化資源の洗い出しをもう少ししっかりとした方がいいかなと思い、資料4を見ましたが、そのあたりのデータがない。

例えば、主に、既存集落かもしれませんが、伝統行事なのか祭りなのか、あるいは習慣や言い伝え。埋め込まれた固有の文化資源を丁寧に掘り起こして、篠岡の時代からこれまでに、どのようにこの地域が形成されてきて今があり、これからどうしていくかということを考えると、資料5の一番右に記載のある資源というものがちょっと弱いと感じます。

#### 【増田会長】

既存集落の中にある伝統行事みたいなものを掘り起こせたらと思います。

事務局に確認ですが、小学校区の考え方は、既存集落とニュータウンが一緒になって小学校区を形成しているのでしょうか。

#### 【事務局】

陶小学校区は既存集落だけ、また、桃ヶ丘小学校区はニュータウンだけで形成されております。残りの、光ヶ丘、大城、篠岡小学校区はニュータウンと既存集落ともに含まれております。

#### 【秦野委員】

資料5のところで、住む・暮らす、働く、既存ストック、資源とありますが、このように分けてしまうと、逆にどのようにつながって、どんな可能性があるかというものがよくわからないので、例えば、既存ストックを市民が利用することで、基本的な考え方のひとつである自立性が生まれてくるとか、また、その自立性をもって働く場を作っていこうとか。そのような関連性を表の中から汲み取れるような形でまとめられるといいのではないかと思います。

また、資料6について、桃花台ニュータウン、既存集落、企業と分けて、真ん中に連携と書かれています。例えば、行政にしかできないこと、市民や市民活動にしかできないこと、企業にしかできないこと、逆にできることなどが、重なってくる部分が必ずあると思います。

例えば、規制緩和などは行政にしかできない。生活をしていくにはある程度インフラを整えていかななくてはいけない。暮らしにくさがあれば、対応しなくてはいけない。そのようなものがわかるようにする必要があります。

既存ストックの中で、例えば、もう少し施設の管理を行政がやるのではなくて、市民や市民団体が管理を行うように移していくと自立性が生まれる。そういった中で、まちをどのようにしていくのかという議論が出てくるのではないかと感じました。

#### 【増田会長】

アフターコロナになると、働くという行為と住むという行為が合一化してくる可能性があったりすると思う。住む、働く、資源、既存ストックこれらが、お互いに関連しあって次が見えてくるようなイメージになるといいと感じますので、少し知恵を絞りましょう。

もう一点。資料6ですが、産・官・学・民の中で、官の役割みたいなものがこの資料では見えない。市民参画型のまちづくりになってくると、行政は黒子ですといわれる方が多いですが、決して黒子ではなくて、行政としてできること、あるいは行政としての役割を意識しながら展開するというのも重要である。行政にしかできない制度改革であったり、財政的な投資であったり、この辺りもきっちり見える形にしていけないといけないというご指摘かと思っておりますので、事務局の方よろしく願いいたします。

### 【大塚委員】

最初に落合委員が言われた、計画を作成しても、実行に移さなければ意味がないということと、新しい担い手や外部の力を借りるといったことがキーワードとして出されたと思います。今回は東部振興構想という構想づくりになるわけですが、できるだけ構想に終わらず、実際に誰が担い手として行かかというところまで落とし込んでいくためには、ワークショップや計画づくりに参画していただくことが重要になると思います。

この計画ができ、それに基づき、すぐに次の行動につながっていくものにしたいと思っています。それと同時に、実際に担い手として活動していただく方にとって、自分たちがやっていることがどういう意味を持っているのか、次にどうつながっていくのかということを示し、実際のまちづくりの担い手の人たちの後押しをするような計画が作れば良いと思っています。

### 【増田会長】

構想案というと何となく、ハードが中心のイメージになってしまうのですが、そうではなく、皆の行動指針になっていくという形にまとめ上げることができたらと思っています。

住民がどうやって東部まちづくりにかかわれるのかということや、かかわれる糸口や窓口をどう盛り込むか。また、企業はどうやってかかわっていくか。行政はそれを実現するために、制度的裏付けや財政的裏付けなどについて知恵を絞らないといけない。どちらかという、すばらしい絵を描いて、これを実現しましょうねという話の構想というよりは、行動指針的なものができるといいと思います。

それと関連しますけれども、実効性を担保して、PDCA サイクルを回すとおっしゃっていたので、この中で、KPI ですね、進行管理をするための指標をどう設定していくのか。この辺りも重要な議論的になってこようかと思っています。これは、市の上位計画の中で、都市計画マスタープランや立地適正化計画で KPI が設定されているのでしょうか。

### 【事務局】

KPI の設定まではしていません。

### 【増田会長】

今回の基本構想の中には目標とする、進捗管理できる指標みたいなものをどう見つけていくかということも重要であるため、出来ればどこかで議論できればと考えています。

計画的に推進するための基軸となる取組方針みたいなものと同時に目標とする指標みたいなものがあるのははじめて実行できるものになっていくと思います。

そのあたり事務局とこの審議会で頭を絞っていきたくて考えています。

### 【事務局】

先ほど、都市計画マスタープラン等では KPI の設定はないと発言をさせていただきましたが、上位計画である小牧市まちづくり推進計画第一次基本計画や小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略では指標等を設定しております。

### 【増田会長】

そうですね。上位計画では KPI の設定をされていますので、それに準ずるものを皆で議論できたら

と思っています。

**【三木委員】**

資料5にあります既存ストックというところに、未利用地、跡地の活用というものがあります。その中に桃花台線旧車両基地用地の未活用というものがありますが、現在、ピーチライナーの線路の橋脚部分の撤去が始まっておりまして、今後は駅が撤去されるので、そういったものの活用も視野に入れたいと思っております。あと、非常に大きいと感じているのが、名古屋造形大学が現在どのような状況で何に使われるか全く知らないのですが、とても大きい敷地なので、そこをどう使えるかということが、東部の人の為だけではなく、企業誘致の促進にもなるのではないかとということで、それは計画の中に入れて欲しいです。

**【増田会長】**

名古屋造形大学の跡地の動きについて、市の方で説明されるようなことはありますか。

**【事務局】**

今こちらの方で、把握している内容はございません。

**【増田会長】**

今ご指摘いただいたとおり、非常に大きい資源ですので、こちらを視野に入れながら策定したいというご指摘でございましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【和田委員】**

企業で考えますと、ヴィジョン、理念があつてそれを行動指針に残し、それを達成するために戦略を練り、それぞれの戦術があつて、一人一人がKPIを設定して動くと言う様なことをしています。行政の動きとは連動はしないとありますが、私がとらえていることが間違っていたら申し訳ございませんが、構想でヴィジョンを示し、その後、どのような戦略で達成していけば良いか、より具体的な項目を立てていくと形になっていくと思う。

今後の進め方ですが、今回は何を議論するのかということをも明確にして話をした方が皆さんわかり易いのかなと思ひます。

最終的にはKGIのような総括的な指標が必要で、KGIからKPIの設定をしてPDCAサイクルを回していくということが大事であると思ひます。

今年度は構想の段階ですので、まず構想を大きく描いて、それを決定して来年度から戦術化していくという話なのか、今年度でそれを作りあげてしまうイメージなのかどちらなのか疑問に思ひます。

**【増田会長】**

ありがとうございます。資料の7の2ページ目に、東部振興構想の体系図というものがあつて、これを見ると実施計画の事業まで構想の中で掲げることになっておりますので、構想と言ひながら戦略レベルまで議論しなければならぬと理解をしておりますが、事務局はいかがでしょうか。

**【事務局】**

会長が言う通りでございます。

**【和田委員】**

未来の10年は過去の10年から考えると変わっていくもので、5年、3年の中短期の指標はすごく重要です。10年を目指してゆっくり走っていくというイメージよりも、10年の大きな構想を見ながら、5年、3年と自治体だからゆっくり行かないといけないということはあるつつも、スピード感というのは大事なので、スピード感を上げつつ、近々の問題で52.5%が高齢者だというまちが、目の前にあり、5年後大変なことになるという意味で進めて行けると思う。あまり長期間で見すぎてしまうと危険かなというような感じがしました。

**【増田会長】**

そうですね。ここにも書かれているように、事業は毎年3年ローリングをすると書かれていますので、そのあたりが非常に重要になってくるだろうと思います。10年を見据えながら、3年5年というようなスタンスで臨むというのが非常に重要になってくると思います。

**【和田委員】**

自治体の費用だけで賄うのではなくて、住民と一緒に巻き込んでやるとか、国の交付金を使ってやるとか、実施可能な構想をかけていくという様な感じでやっていった方がいいと思います。

**【増田会長】**

ありがとうございます。もう1点今のご指摘から言うと、資料7の5ページ目にまちづくりミーティング及びワークショップの開催と同時に振興構想案の検討と書いてありますけれども、今おっしゃっていただいたように、4回ぐらいを想定されるのでしたら、次回は構想の体系の中のどこを議論するのかを早めに資料配布いただき、事前学習していただいたうえで、ここで議論し、その結果をもう一度次の回に振り替えるという様なローリングをしながら展開していくようなスケジュールを立てたいと思います。それとワークショップをどう関連させていくのかというあたりを含めて答えを出していくようなことが必要かと思います。

**【大塚委員】**

確認をさせて頂きたいのですが、私の認識と若干違っていたところがありまして、資料7の2ページ目の構想の体系図の(2)のところに構想策定後は、東部振興構想に基づく、実施計画を策定しとなっていたので、実施計画自体が構想の外側の話かなと思ひまして、この体系図が間違っているのではないかなと理解していたのですが。

**【増田会長】**

わかりました。非常に重要なご指摘ですので、私は実施計画まで含んでということだと思っていましたが、事務局はいかがでしょうか。

### 【事務局】

大塚委員からもご指摘が出ましたが、構想自体は実施計画も含めて考えていきたいと思っております。なお、実施計画というのは毎年3年ローリングの計画で作成したいと考えています。

### 【増田会長】

少しあいまいですが、構想の中に実施計画の基本的なものを示すのかあるいは初期の3年分を示すのかというあたりについては、きっちり整理しておいたほうが良いかもしれません。

### 【大塚委員】

今の話で、スケジュールからすると9月までに半年しかないわけですね。ベースの部分はこれまでの戦略会議でかなりの部分ができているので、それを基にやっていけば良いということでしょうか、ワークショップも行いながらということになると、半年でどこまで行くのかということは若干心配しています。

### 【増田会長】

そうですね。ワークショップでどんな議論をして、それをどういう形で審議会にフィードバックをいただけるのかと。反対に審議会で議論したことをどのようにワークショップの方にフィードバックするのかと。そのあたりも含めて詳細なスケジュールリングが必要かと思しますのでよろしくお願いします。ご指摘ありがとうございます。

### 【古池委員】

1つ教えて欲しいのですが、資料6に3つの異なったコミュニティの絵が描いてありまして、桃花台ニュータウンと既存集落はなんとなく親和性がありそうですけれども、疎外感がありそうなのが企業のコミュニティだと思います。この流れの中で企業とどのようにコミュニケーションをとっていくかというプロセスが良く分からなくて、出来るだけ早い段階から企業の考え方とか、せつかく東部地区に進出されているので、プロセスの中での組み込み方といいますか、どのプロセスでどのような形で仲間に組み込んでいくというところはどのようなのでしょうか。

### 【増田会長】

いかがでしょうか。そもそも企業団地の中に企業群のコミュニティがあるのかどうかという話が1つと、コミュニティがあった場合、そのコミュニティへの意向確認としてのヒアリングとか参画というのをどう考えるのかと、そのあたり事務局のイメージはございますか。

### 【事務局】

企業団地でのコミュニティというのは把握できていませんので、商工会議所等を通じて、連携が組めるような体制を考えていくことですか、先程申し上げたワークショップにご参加いただくことも考えております。

### 【増田会長】

おそらくそこで就業されている人達が、桃花台ニュータウンの潜在的な定住者としてターゲットに

なるのかどうか。あるいは企業の方々が企業団地の中の共同利用施設みたいなものを桃花台ニュータウンの中で考えるのかどうか。様々なチャンネルの持ち方みたいなものがあるかと思しますので、その辺を意識しながら、企業も含めた東部地域の活性化を見ることが必要だというご指摘かと思しますので、事務局の方にも考えて頂こうかと思します。

もう1つここに大学と書かれていますが、事務局にそのあたりのイメージはあるのでしょうか。

**【事務局】**

若い学生の力を借りてということで、東部地域にも大学はありますし、東部以外でも大塚委員がいらっしゃる中部大学もありますので、若い方に参画いただければと考えております。

**【増田会長】**

例えば、ワークショップの中には中部大学や、中部大学の学生も参画いただけるということはあるのでしょうか。

**【事務局】**

中部大学とはワークショップで連携を取らせていただきたいと考えております。

**【増田会長】**

そうですね。ワークショップで学生を巻き込むということについて大塚委員いかがでしょうか。

**【大塚委員】**

そのあたりは、事前にご相談を受けていたのですが、私が前面に立ってということではなく、中部大学にはたくさんの先生方がいらっしゃるの、他の先生方の協力を得てワークショップをやっていたら、私も周りの学生を参加させるなどして協力できればと思っております。

**【増田会長】**

ありがとうございます。例えば私が泉北ニュータウンでやっている経験から言うと、単純にワークショップだけではなく、学生達も含めてワークショップの中でまちづくりイベントみたいなことも企画してやってみようという、行動に繋げていくというワークショップの出口があっても良いと思しますが、議論だけだと行き詰ってしまう可能性がありますので、一緒にこんなお祭りしましょうかという話が合っても良いと思します。

**【秦野委員】**

まちづくりミーティングとワークショップをどのように進めて行くかということを緻密にやらないと上手くまとまらないと思します。非常にテーマの幅が広いので、例えば私が最近思うことは、SDGsのアイコンとかが行政、企業、市民活動団体をつなぐ共通言語だと思している。例えばSDGsアイコンを基にして、まちづくりミーティングやワークショップを何回かに分けて、テーマごとにやられると、企業がそこに参加をしながらまちづくりに対して良い知恵がいただけるのではないかなと思しました。

**【増田委員】**

そのあたりは、知恵を絞らないといけないかもしれませんね。  
事務局の方でワークショップのイメージはございますか。

**【事務局】**

中部大学とご相談しながら進めて行きたいと考えております。

**【増田会長】**

分かりました。本日、色々なアイディアを出されていますので、そのあたりを盛り込みながらやって頂ければと思います。

**【増田会長】**

他はいかがでしょうか。

**【田中委員】**

基本的な考えの中にあるチャレンジをサポートするまちづくりというところに非常に目を引かれていますけれども、構想づくりの中では、地域性を無視することはできないと思っています、特に実施計画まで踏み込んでいくことになると、どれくらいのコミュニティのエリアにしていくのかということは、また議論が出てくるのかなと思っています。その中でも何か1つ地域づくりの中で、コミュニティとしてチャレンジしていくもの、先程会長もおっしゃいましたけれども、何かモデル的にやってみるとか、チャレンジしてみるとか、そういったところを、トピックス的に捉えていくようなことを計画の中に盛り込んでいくことは非常に魅力的だと思います。

**【増田会長】**

わかりました。今私は10年前に作成した泉北ニュータウンの再生指針を改定していますが、その中では10年間で様々な新しいチャレンジとか、新しい成功事例とか、小さな成功事例とかが出てきますので、極力それを構想の中に位置付けましょうと、あるいは再生指針の中に位置付けましょうということをやっています。よそのニュータウンですとか、よその地域の活動ばかり書いている構想図は結構たくさんあるのですが、小牧市はチャレンジという言葉が大事にされています。実際、東部地域や桃花台ニュータウンに小さな芽があります。その芽をうまく盛り込んでいけるようなことになれば、取り組みやすい構想図になると思いますので、貴重なご発言だと思います。ありがとうございます。

公募委員の他の3名の方で、何かご発言はございますか。非常にフォーマルな形で座っていただいておりますので、中々発言しづらいかと思いますが。

**【渡邊委員】**

私の住む篠岡地区は、高齢夫婦世帯や独居老人が多く、車がなければ生活しにくい環境です。今後、免許返納者も増えていく中、巡回バスはありますが乗車時間が長くコースがわかりにくい箇所もあり、まちや買い物、駅へ出ることも不便になると思うので、住民の声をもつと多く聞き、知恵を出しあつて住みやすいまちへ改善していければ良いと思っています。

### 【増田会長】

そうですね。高齢化の中で大きな課題の1つはモビリティの問題で、車を運転されていた方が免許を返納するとか、ジョギングできていた方ができなくなるとか、そのような話で、いかに外出をサポートする個別交通の仕組みを考えていくのか。もう1つは、買い物難民的な日常の買い物サポートみたいなものをどう考えていくのかということも重要な課題です。全てネットや宅配で済ませられる社会ではなくて、やはり外出する機会をいかに発生させるかということが肉体的・精神的な健康につながると思いますので、そのあたりも大きな課題として議論できればと思います。

### 【藤村委員】

素人ですので、難しいことは分からないのですが、子育てをこの地域でしてきたものとして、偶然ですけれども、2年程前、息子が中学生の時に、東部まちづくりミーティングに学校代表として参加したことがあります。その時に、大人が考え付かないようなユニークな発想を子どもたちが発言していたことを息子から聞きました。非常に興味深く、実際に実行できないかもしれませんが、子どもたちが自分たちのまちをこうしていこうということを考えることによって、自分たちが将来住みたいと思えるようなまちをつくれるのではないかと考えたことがこの委員に応募したきっかけですので、子どもたち自身が考える機会があるといいと思っています。

### 【増田会長】

ありがとうございます。

データ集にも一部、中学生がこの地域の良さについて書いていただいているものがあります。大人が気づかないような視点が資料4の中にもありますけれども、策定の過程の中で、小中学生あるいは高校生を含めてヒアリングやミーティングができるような機会をどうつくるかということも一つの課題かもしれません。例えば今ご発言いただいた藤村委員のネットワークを通じて、子どもの意見を吸い上げられるような機会をうまく作ることができればと思います。

### 【和田委員】

難しいとは思いますが、授業で出来ればいいですね。自分のまちを考える授業は、効率的で重要だと思っているので、学校でそういう機会をいただけるようなこととか、そこから発信できればと思います。現在はITも進んで、実はいろんなことができるのではないかと思いますし、子どもの意見により、企業が動いていくというのはあり得る話だと思うので、学校、授業の一環で皆様と一緒に考える機会を持つことができればいいなと思いました。

### 【増田会長】

そうですね。よくやるのが、まちの探検地図みたいなものを授業で書いていただいて、先生がそれに対してコメントをするとか、あるいはそれを投げかけていただくとか、我々では気にならなかったことに対して子どもは不安になっているとか、そういったものがハザードマップにも繋がっていったりもします。どこまで教育委員会の協力が得られるのか分かりませんが、そのあたりを探ってみても良いかもしれませんね。

企業とのミーティングや子ども達とのミーティングの中で意見を吸い上げる機会を作ることについて、事務局はいかがでしょうか。

**【事務局】**

藤村委員からご説明があった内容について、資料 4 の 56～57 ページに中学生スクールミーティングの結果として載せてあります。その後ですが、昨年 3 月 12 日の中日新聞に夜道は暗いということについての対応ということで、住宅の門灯を灯して明るい道にしていこうという中学生が発案した内容が地元で実施されたという成果も出ていることから、若い方の柔軟な発想というものを取り入れていきたいと思っております。できればその機会として、ワークショップやスクールミーティングという形をとってご教授いただきたいと考えております。

**【増田会長】**

ありがとうございます。本日予定しておりました議題の中心となります資料 5～7 を用いた議論はこの程度で終えたいと思いますが、どうしても発言したい方はいらっしゃいますか。

**【村上委員】**

初めての会で要領が分からず、今まで発言をしておりませんでした。この資料はほとんど入り口段階の構想の基本的な考えに立たれておられて、具体的な案があるのかと思いましたが、全く無いようなのですが、もう少し行政側から、こういうことをやっていきたいなという具体的なことが示されないと半年でパブリックコメントを出すのは無理ではないかと思いました。今までたくさんの課題をおっしゃっていましたが、それをすべて解決して行って、パブリックコメントに盛り込むことは時間的に無理じゃないかと思いましたがいかがでしょうか。

**【増田会長】**

基本的には今日は第 1 回目ということで、まちの基本的なスタンスと昨年の戦略会議での成果の確認ということだと思います。今日は進め方に対して議論をしていただきましたので、どのようにスケジュールを組めば東部振興構想を詰め切れるのかということは、事務局の方で知恵を絞っていただいて、それを審議会で議論しながらパブリックコメントの原案に繋げていきたいと思っております。事務局補足はありますでしょうか。

**【事務局】**

目標としては令和 3 年度中ということで示しておりますが、取組スケジュールにつきましては、様々なご意見をいただきましたので、柔軟に対応していきたいと考えております。

**【増田会長】**

村上委員がおっしゃっていただいた点で、空中戦ばかりではないかという話がございますので、より実行できるものへということ、今日の議題でも沢山出てきておりますので、そこを踏まえてのスケジュールリングを作成し、皆様へご提示しながら、進めたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

**【村上委員】**

わかりました。

## 【増田会長】

それでは、(3) その他に入りたいと思いますけれども、事務局何かございますか。

## 【関係部署】

小牧市農業公園につきまして、説明させていただきます。

初めに位置ですが、桃花台ニュータウンの北、小牧市大字野口地内になります。面積は、約5.9haであります。

農業公園の計画地は、桃花台ニュータウンに近接し、居住区域と田園地帯の結節部に位置し、周辺に樹林地などまとまった農地がある緑豊かな地域です。

東部地区を選定した理由につきましては、東部地区が桃、ぶどう等の本市特産品の産地であり、地元農家や農地が多く存在していることから、これらの作物の栽培にも適しており、農業体験を通じて身近な農業にふれあう場の提供や、地元農作物のPRを効果的に行うことができる場所であると考えております。

農業公園の規模につきましては、県内施設の事例、本市市民菜園の現状等を踏まえ検討を行い、算定しました。体験農園ゾーン、市民菜園ゾーン及びにぎわいゾーンの合計約2.4haと、その他のエリアとして、小牧市都市計画マスタープランに記載の景観形成の方針に基づき、園内の田園景観との一体的な景観資源として、本公園の外周に存在する樹林地約3.0haの保全を図りつつ、既設の調整池約0.5haを合わせて全体として約5.9haを整備するものであります。

次に事業内容ですが、本日、机上配付の(仮称)小牧市農業公園整備基本構想(概要版)にて説明させていただきます。

左側1頁の枠の中になりますが、事業コンセプトとしまして、まず基本理念は「食育と環境 農と里山の恵み・ふれあい」で対象は、子どもや高齢者の方々を含めた全ての世代の市民目標は、食育の面から身近な農業を通じた食の大切さを理解する場、環境の面から里山を活かし自然環境とのふれあいの場の二つの方向から農業振興の発信の場を目指すものです。

基本方針を表すキーワードは、体験・交流・育成です。体験は、市民菜園・収穫体験農園を。交流は、市民と生産者が農業を通じて生きがいを感じる場を。育成は、担い手の育成の場として。

土地利用としては、体験農園ゾーンの他、市民菜園ゾーンなどを予定しており、その図が資料の右側2頁ゾーニング図に、さらに主なゾーンのイメージ図がその下に示してあります。あくまでも基本構想の段階ですが、そのようなものを描いております。概算事業費は4億2500万円。内訳としては、整備費と管理棟他の建築費であります。

なお、農業公園予定地の周辺には、市民四季の森や桃花台中央公園等の多くの都市公園が既に整備されておりますが、農業公園につきましても、災害時には一時避難場所としての活用、都市公園が持つ住民レクリエーション活動の場の確保、生活環境の整備保全、都市の安全性の向上及び良好な都市景観の形成といった機能が図られることから、都市公園として整備し、東部地域の振興にも寄与するものであると考えております。

今後のスケジュールですが、令和6年10月の一部供用開始に向け、都市公園として整備するために都市計画決定の手続きをはじめとし、必要な事務を順次、進めていく予定であります。

つきましては、農業公園に関して東部まちづくりの観点から審議会委員の皆様よりご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

**【増田会長】**

これは聞置くという話でなく、ご意見があれば頂くということによろしいでしょうか。

**【関係部署】**

ご意見いただければ、参考にさせていただきたいということでございます。

**【増田会長】**

わかりました。

それでは農業公園に関してお気付きの点、あるいはご提案があればご発言いただければと思います。

**【古池委員】**

農業公園という拠点ができることで、周辺農地の農業生産者とか、そことの相乗効果といいますか、拠点の中で完結するイメージなのか、あるいは衰退気味の農業振興にどのように寄与するのかお考えであれば教えて欲しいですし、視野に入っていないようであれば是非そこを視野に入れるべきだと思います。

**【増田会長】**

事務局いかがでしょうか。

**【関係部署】**

農業公園の中に関しましては、ご案内させていただいた通り、体験農園や市民農園ということで、農園をきっかけにすると行ったような形で、担い手の育成のきっかけづくりにと考えております。さらには、周辺農地、農家との連携の中で農業振興に役立てればと考えておりますが、具体的な方策については今後しっかり考えていくこととなりますので、検討していきたいと考えております。

**【増田会長】**

ぜひとも地域の農業振興との連携とかを考えないといけない。第3者呼んでテーマパーク的なことをやってしまうと非常にまずいと思いますので、古池委員のご指摘のとおり少しお考えいただければと思います。

**【和田委員】**

計画決定していて、これを作りますというイメージなのでしょうか。

**【関係部署】**

都市計画決定自体は今後になりますが、基本構想から更に基本設計を今年度もやっておりますので、計画自体は順次進めて行くという方向は出ております。

**【和田委員】**

すごく危険だなと思いました。失敗するパターンになりかねないというのを感じています。まずは、地域の方々が望んでいらっしゃるのかということ。検討段階ですので、これから変わっていくと思うの

ですが、農業公園を求めている方のニーズをキャッチして、そこにずれがあることによって、周りに相乗効果があるかという検証、マーケティングという部分やターゲット層は誰でというコンセプトというのが、今の説明では、全く見えなかったもので、事業としては民間ではやってはいけないことだと思います。昔から第3セクターで失敗しているのは、やりたいということの理由を優先とし、ニーズをとらえきれずに失敗するといったケースがある。素晴らしいコンセプトで地域の方々の為にもなるし、農業促進にも繋がり、連携が取れる。しかもここに近くなるような場所にしなければならないはずなので、そのようなことが全て見えるようにしないと、誰も使わないものになってしまいます。それならば、今ある公園を農業公園にした方が良いという風に思いました。大変失礼な言い方をしているかもしれませんが、今後の計画の中で、民間の力を入れ、運営は長けているところに任せつつ、一緒に作るというイメージで検討いただきたいなと思います。そうでないと、この4億という大切な税金が無駄になってしまいます。閉鎖に繋がっていくという事例を全国の自治体で見ってきましたので、そこを懸念します。結局は地域の方々にとって意味をなさないものだったという話が最悪な状況だと思うので、あえて言わせていただきますと、民間の感覚というのをしっかりと入れていただいて、必ずサステイナブルな場所にしていくというようにやっていただきたいと思います。

**【増田会長】**

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

**【大塚委員】**

戦略会議の時も申し上げたのですが、農業公園をどううまく生かしていくかが、東部地域のまちづくりにとってカギになるのではないかと考えています。和田委員がおっしゃったような、ニーズというものを大前提とするわけですが、元々そのような市民菜園のニーズが小牧の中でどのくらいあるのかということ。特に桃花台の住民の方々の中にどのくらいのニーズがあるのか。もしニーズがあるのであれば、そういった人がニュータウンの周辺に出かけて行くということもあるでしょう。一方で、農業のデータが資料4の中にありますが、兼業農家は15年間で半減以下になり、その一方で専業農家は増えています。その専業農家の人たちが農業公園とどうかかわっていくかということも考えていけば、東部のニュータウンと周辺とが一体となって何かをやっていく場所としての可能性はあるのではないかと考えています。大前提として担い手なりニーズをしっかりと踏まえたうえで考えていって頂ければと思います。

**【増田会長】**

他はいかがでしょうか。

**【落合委員】**

農業公園は、相当長い期間計画されていて、用地買収も相当前に済んでいるところですので、極力早く進めて欲しいというのが、近隣の方の願いですし、待っていることだと思います。その中で、鷹ヶ池というものがございまして、農業公園と水辺と一体として利用ができれば、さらに価値が付きましますので、農業公園の隣の鷹ヶ池と上水道の土地もありますので、そのあたりをうまく利用して、もう少し幅を広げた計画にすると良いかと思っています。

**【増田会長】**

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

**【秦野委員】**

やはり管理運営だと思います。公園なので、例えば市民四季の森であれば緑地管理協会が管理されていたり、それが民間ですとか市民が管理の方にタッチできるという形で計画を練って頂ければと思います。

**【増田会長】**

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

**【村上委員】**

噂では鷹ヶ池の付近だと聞いていましたが、初めて計画を知りました。個人的な意見で申し訳ないのですが、山林を切り開いてまで作って欲しくないと思っています。この大草とか野口の人は、この公園を作ることによってどのくらい利益が出るのかということが全然分からないのです。土地を持っている人は喜ぶと思いますが、まわりの農業の人は何の足しにもならないと私は思います。市民四季の森も普段行くとガラガラで、お客さんが殆ど来ていません。その近くに広大な都市公園を作っても管理費等が永遠にかかって小牧市の負の遺産になるのではないかと思います。大草とか野口の住民が喜ぶ場所に作るものでしたら良いのですが、わざわざ高齢化する桃花台では農業する人もいないし、散歩道になるだけだと思います。そういうことを考えて、もう少し工夫して頂ければと思います。

**【増田会長】**

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

**【中川委員】**

ここに挙がっております小牧市農業公園、今、村上委員からのお話もありましたように大草地区という声が出ておりました。実は現在、大草西、大草東並びに小牧ヶ丘、この3区においてここに出ています。東の方に太良上池、太良下池がありますが、ここでの公園が計画されております。この案につきましては、名古屋造形大学の先生並びに愛知文教大学それから他の大学の先生も交えて進行しておりますけれども、そこが全く記載されていないということは、今現在、それが頓挫してしまっているのではないかという単純な疑問なのですけれども。

**【増田会長】**

ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。

**【事務局】**

太良上池、太良下池に関してご質問をいただきましたが、今回は農業公園の位置図を示させていただいたものであります。太良上池、太良下池につきましても、今後進めて行くということで、予算も確保したところでございます。

**【中川委員】**

ありがとうございました。実はここは、愛知県の天然記念物として指定されている「マメナシの木」というものが自生しているところでもあります。太良上池、太良下池を通じて自然をいかに維持していくかということが課題になっていることから、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【増田会長】**

ありがとうございます。まだまだ意見はあるかと思ひますが、申し訳ございませぬが、基本構想に關しましてご意見がある場合は事務局に何らかの形でお伝ひいただくというこゝでお願いしたいと思ひます。また、私からのお願いなのですが、農業公園構想を今回の審議会の中でどのような形で扱うのか、なんとなく審議会の場を借りてガス抜きの扱ひという時代ではない。これからの扱ひについて、事務局で検討してください。審議会の1つの議案として扱うのであれば、その他ではなく、きっちりと農業公園整備基本構想が東部まちづくりにどのように影響してくるのかとか、どのような効果を期待して展開していくのかという紐付けをしてきっちり議論して、進めていく必要があるかと思ひますし、切り離すのであれば、地元の説明会であったり、ヒアリングであったり、農業団体とのミーティング等をしつかりやっけていただく必要があると思ひます。そのあたりを整理していただければありがたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。事務局よろしいでしょうか。

**【関係部署】**

ありがとうございます。

**【増田会長】**

今日の取りまとめですけれども、非常に多岐に渡りましたので、資料5に關しましては、主は前回の戦略会議ですから、大幅な修正はないかと思ひますが、少し加筆ができるとういと思ひます。概ね資料5、6については了解いただいたかと思ひます。それに対して資料7に關しましては進め方、到達点、ワークショップとの関係性の整理、スケジュールリング等非常にたくさんのご指摘をいただいておりますので、これに關してはもう一度改定をして、次回再度議論をする。それに加えて次の段階として、本日はどちらかとうい理念、方針の空中戦でしたのでヴィジョンであるとか取組方針にどう繋げていくのかとういこゝで進めて行きたいと思ひますが、大塚委員いかがでしょうか。

**【大塚委員】**

はい、結構かと思ひます。ありがとうございます。

**【増田会長】**

そのような形で事務局も臨んでいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

次回の日程も含めて事務局の方で話をしつて頂ければと思ひます。

今日初めて19名の方にご参加をいただきまして、非常に堅苦しく、もう少し取っ付きやすくすべきだとういご意見もありましてので、心がけたいと思ひますけれども、極力、意見交換ができるように進めて行きたいと思ひます。事務局に質問を投げかけて、事務局が答えるという話だけではなく、委員同士で将来像について議論を行うとうい形で進めてまいりたいと思ひしておりますので、非常に有意義な

意見交換ができたかと思っております。それでは事務局の方に進行をお返ししたいと思います。  
よろしく願いいたします。

**【事務局】**

会長ありがとうございました。ご指摘いただいた点は、次回お答え出来るようにしていきたいと思っております。本日の会議録でございますが、事務局で作成次第、委員の皆様へ送付させていただきますのでご確認をお願いしたいと思います。その後、市役所内での情報公開コーナー及び市のホームページにて公開させていただきます。次回の審議会につきましては、日程が決まり次第、ご連絡させていただきますきたいと思います。

**【事務局】**

委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、第1回小牧市東部まちづくり審議会にご出席いただき誠にありがとうございました。最後に事務局より連絡をさせていただきます。十分交通安全には注意されまして、ご自宅まで無事にお帰りいただきますよう、よろしく願いいたします。それでは以上をもちまして、第1回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。

**【了】**